



5月10日 みしまの川をきれいにする奉仕活動



4月30日 アジア・マニア（韓国）に招待された
みしまくん・みしまこちゃん



4月27日 藤棚（塚原新田）



5月7日 東レアローズ
市長表敬訪問（市長応接室）



4月29日 安久お花畑音楽会



4月29日 おやこまつり2015
（中郷文化プラザ）



5月7日 悪質商法未然防止
街頭広報（日清プラザ前）



4月27日 なかよしルームオープニングセレモニー
（錦田保育園）



5月5日 大通り商店街まつり



5月2日 みしま健幸塾
オープニングセレモニー（中央町）



5月2日 みしま健幸塾
大腰筋トレーニングマシン（中央町）

新規資料 (絵図) 浮世絵・村絵図

今回は現在開催中の企画展「新規収蔵品展」から絵図の資料として、浮世絵と安久の村絵図を紹介いたします。

はじめに紹介するのは三枚続きの浮世絵、三代歌川豊国画「役者絵 東海道五十三次の内 三島」(図①)で、これは江戸時代後期の作とされています。この中で左から二人目に「おせん」という女性を描かれています。

「おせん」は「恋伝授文武陣立」という人形浄瑠璃の登場人物で、夫のあだ討ちを果たそうとする美人盗賊として描かれています。美女のあだ討ちは大衆に人気の演目だったらしく、明治期まで上演されていました。

また、「吾孺下五十三駅」という歌舞伎の舞台にもおせんは女盗賊として登場しています。

この浮世絵では、旅籠の中と思われる場所で女盗賊である「おせん」が飯盛女(宿駅の旅籠屋で旅行者の寝食の世話をした幕府黙認の遊女)に扮して客らしき者に応対している場面が描かれています。



▲図①「役者絵 東海道五十三次の内 三島」

二点目は、幕末、慶応四年(一八六八)に作成された安久村(現在の三島市安久)の村絵図(図②)です。これは、江戸時代に安久で名主を務めていた杉山家より寄贈された「安久・杉山家文書」の資料のひとつです。

安久は中郷地区南部にあり、函南町と境を接しています。また、大場川に面しているため、たびたび水害に見舞われてきました。杉山家文書の中にも江戸時代の水害の記録が残されています。

昭和に入ると戦争による工事の遅れに見舞われながらも河川改修が行われ、河道が変わりました。この絵図に描かれている大場川と現在の河道と比べると、流路が違っており、ずいぶん蛇行していた様子がわかります。

また、村絵図には神社が三方所描かれています。これらは現在も残る王子神社、諏訪神社、安富神社と推定されます。このように、村絵図は地域の変化したところや、昔のまま変わらないところを知ることができ、貴重な資料です。



▲図②「安久村絵図」

ご紹介した企画展「新規収蔵品展」は、は六月二十八日(日)まで開催します。



三島の村名①

伊豆佐野村

(佐野・萩地区)

伊豆佐野村は現在の三島市北上地区、大場川左岸の裾野市との境に位置しています。萩地区は佐野の飛び地でしたが昭和初期に完全に独立した地区として認められるようになったようです。裾野市域にも佐野村があるため、これと区別するために「伊豆佐野」と呼ばれます。「佐野」の佐は「狭」で狭い場所、という意味からきているようです。また、この地名は鎌倉時代からあったようで、頼朝が箱根神社に寄進した「佐野郷」は伊豆佐野のことだろうとされています。江戸時代後半の村高は四九一石で比較的規模の大きな村といえます。

佐野は上・中・下の最寄(村をいくつかに分けた区分)に分かれています。一月中旬、夜中に搗いた餅を山神社に奉納する中、最寄の「ヤッサモチ」と呼ばれる祭りはとくに有名です。



▲「ヤッサモチ」祭りの様子